

創立記念日によせて

10月15日は鳥羽高校の創立記念日です。昭和58年(1983年)10月15日、京都府の条例により京都府立鳥羽高等学校が設置され、翌年4月1日に開校して以来、今年で40周年を、あわせて、明治33年(1900年)に開校した、鳥羽高校の前身である京都府第二中学校(京二中)は創立123年を迎えました。鳥羽高校の創立40周年を機会に、この10年の教育活動を振り返りながら記念誌を編集しているところですので、完成の後、皆さんにお配りしたいと考えています。

さて、本校の校風である「文武両道」と「質実剛健」は、京二中から受け継いだものです。第1回全国中等学校優勝野球大会(現在の夏の甲子園大会)での優勝、日本で初めての学校スキー研修の実施、学校吹奏楽史草創期でのバンド「楽隊部」の活動など、全国に先駆けて学業とスポーツ・文化の活動の両立を図ってきた学校が京二中であり、本校はその伝統を誇り高く継承しながら、今に至っています。

鳥羽高校は、昭和59年度に第1期生を迎えて教育活動をスタートさせ、既に13,663名の卒業生を輩出しています。創立以来、鳥羽高校には生徒一人一人が規律正しい生活を送り、真面目に努力することによって互いに高め合おうとする集団があります。

今、社会は、グローバル化の進展やA Iの急速な発達等により、世界中の情報の中から必要な情報を瞬時に手に入れることができるようになりました。利便性が高まる一方で、その情報の中には不確実な情報が含まれていることが知られています。また、予想を上回る地球環境の変化や世界人口の増大といった、単独の国や地域では解決できない課題も山積しています。こうした変化の激しい複雑で予測困難な時代を主体的に生き抜くためにも、鳥羽高校で培う、自他の尊厳を自覚した心豊かな人間性(Humanity)、自らの課題を自ら解決する意志力と実践力(Self Command)、国際感覚を身につけ21世紀を主体的に生きぬく創造性(Pioneer Spirit)が大切だと考えています。そして皆さんは、日々の学校生活の中で、疑問を持ち、考え、やり遂げることによって、生涯にわたって自ら成長しようとする姿勢を培い、どのような困難や課題にも仲間とともに向き合っていけると信じています。

生徒のみなさんが、長い歴史と伝統をもつ京都でしか学べないことを大切にして、志を高く掲げ、将来、幸せで豊かな人生を主体的に送る力を身につけ、幸福な自他と社会の実現に向けて、新たな歴史の1ページを拓いてくれることを強く願っています。

令和5年10月15日

京都府立鳥羽高等学校長 宮島 勇二